

# 引き下げアカン！大阪の会通信

生活保護基準引き下げ  
違憲訴訟を支える大阪の会  
TEL06-6697-9144  
FAX06-6697-9059  
✉ seiho.ikensasaeru.osk@  
gmail.com

## 高裁6回期日 原告4人が尋問で訴え

9月27日大阪高裁で第6回期日が開かれ、三木屋さん、新垣さん、Zさん、小寺さんの原告4人が尋問に立ち基準引き下げで回復が困難な損害を受けたと訴えました。

### 喪服買えず通夜に参列

三木屋さん(88歳・女性)は、かつては東映太秦撮影所にいたこともあり、女優の浅香光代さんとも50年来の親交がありました。令和2年に亡くなった浅香さんから、亡くなる数年前に東京に遊びに来るよう言われましたが、交通費が出せないため返事ができませんでした。三木屋さんの経済状況が苦しいことを知っていた浅香さんが新幹線チケットを送ってくれたため、なんとか東京まで会いに行くことができました。

三木屋さんは、お金がないので人と会うのをあきらめたことが何度もあったと証言しました。知り合いが亡くなった時も香典が出せないためお葬式に行くのをやめました。どうしても焼香をあげたい方については喪服を着なくてもいいお通夜に参列します。お付き合いができなくなると、お友達ともだんだん疎遠にな

り、さみしい思いをしました。たとえ引き下げ処分が取り消されて、減額された分が支払われたとしても、失った交友関係がもとに戻ることはないと訴えました。

### 失った母との時間戻らない

新垣さん(68才・男性)は、引き下げで府内遠方のケアハウスに入っていた母親に会いに行く回数を減らさざるを得なくなったと語りました。

2020年10月に母親がもう長くないと知らされ、12月ごろの面会が最後になりましたが、衰えが著しく意思疎通もかなわない状態でした。翌年1月に命が危ないという知らせが届いて急ぎ向かいましたが、道中で息を引き取ったと知らされました。尋問で、もし引き下げがなかったらと問われた新垣さんは、「引き下げ前と同じ回数だけ母に会いに行っていたと思う」と応じました。たとえ引き下げが取り消されて後からその分のお金が



返ってきても、失われた母親との時間が戻ってくることはありません。

### 故郷に一度は帰りたいかった

原告のZさん(73才・男性)は沖縄県の宮古島出身です。

1970年のコザ暴動のニュースに強い衝撃を受け、在籍していた神戸大学医学部を中退して政治活動に専念するようになりました。以来、米軍基地問題をライフワークとしてきました。Zさんが引き下げで辛かったのは、数十年続けていた新聞のスクラップを購読料が払えないためあきらめたことでした。Zさんにとって新聞のスクラップは社会で起こっていることを知り、自分の考えを整理するために必要なことで、それが奪われたことで、

【裏面へ続く⇒】